

(その4)

所 信 表 明 書

2021年 2月 22日

氏 名 菱山 豊

( 所 信 )

1. 経営の基本的考え方と将来像

私は、大学の価値は学問の自由に基づいた真理の探求と知の創造、さらに、その実践応用にあると考えております。教育研究活動や社会貢献もこれらが前提です。私は学長として、学生が高度な学問を享受する機会を授け、教員の皆様の研究力を支援することにより、学問をさらに発展させます。また、宮崎大学のスローガンである「世界を視野に地域から始めよう」に基づいて、地域から国際社会に至るまで、広く社会に貢献する大学経営を行い、活力ある地方総合大学としての見識を示します。そして、学生、教職員、地域社会、すべてのステークホルダーから『選ばれる宮崎大学』を目指します。

昨年 12 月、文部科学省の「国立大学法人の戦略的な経営実現に向けて～社会変革を駆動する真の経営体へ～」と内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の「地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議」によるとりまとめという重要な報告書が公表されました。宮崎大学の経営に当たっては、こうした政府の動きや社会の要請を参照し、国との新たな「自律的契約関係」を構築します。

2. 何故宮崎大学なのか？

私は、かねてより緊迫する大学経営の改善に、何らかの形でお役に立ちたいと考えておりました。そんな折、何度か得た来学の機会から、宮崎大学の研究力を高く評価しておりました。この度改めて、宮崎大学の実績と潜在能力と課題点を調べた結果、これまでの人生で得た知見と人脈をもって、学長として大学経営の向上に貢献できると確信した次第です。

3. 教育

留学生を含む在籍学生のみならず、県内外の中・高校生など未来の学生や大学卒業生も宮崎大学のステークホルダーであるにとらえ、より優れた教育を提供するために、現在の学部・大学院教育、リカレント教育、最適な入試システムを考えます。また、学問的探求心に富み、果敢に課題解決に取り組み、社会で評価される学生を育てる教育の場を構築しま

す。産業構造が大きく変化する中で、学生には、デジタルトランスフォーメーションやビッグデータといった時流に踊らされることなく本質を理解する能力が求められます。そのため、文系理系を問わずデータサイエンスや統計学の基礎を学べる体制を整えます。また、大学内外の講師陣からなる学部横断的な「総合知」(仮称)の講義を提案し、全学生はもちろん、宮崎県民にも受講の機会を与えます。

#### 4. 研究と国際貢献

宮崎大学には、卓越した組織的な研究実績(人獣共通感染症・国際防疫、農業資源研究、太陽光利用などの環境エネルギー研究、中小企業イノベーション、地域資源の活用研究、がん研究、スポーツ医学、ポピュレーション・スタディなど)及び個人の優れた研究成果があります。これらを強化するとともに、異分野融合による新たな研究領域の創生、先端研究設備の共有を進め、大学全体の研究力を結集して、地域の活性化や課題解決や、SDGs などの世界的な課題解決に向けた貢献を進めます。そのため、大学の強みを基盤とし、他大学や公的研究機関等との協力態勢を構築します。

#### 5. 医療への貢献

附属病院が宮崎県の最後の砦として地域医療に大きく貢献し続けるため、これまでの取り組みを尊重し、継続することが重要です。そのうえで、働き方改革を念頭に、全職員のキャリアパス支援を強化します。現在取り組まれている県との連携による卒業生の定着制度に加え、独創的な研究、地の利を生かしたコホート研究、高度な臨床実践を強力にサポートし、卒業生、若い医師に『選ばれる』附属病院を構成員とともに構築します。また、産学連携、国際化対応、がん CNS コースによる高度実践看護師の育成を強化し、災害リスク軽減や SDGs をも包含した予防医学からリハビリテーションまでを俯瞰的に考えグローバルを実践するヘルスケア研究を国と協力して推進します。

#### 6. 社会貢献と知の循環

地方自治体、農・工・商・金融等の産業界、高等学校等の教育界、医療界等の関係者と意見交換を不断に行い、協力して宮崎県が抱える課題を特定し、大学の知を活用した解決策を提案する仕組みを支援します。この様な作業を通して、研究に基づく、地域と大学の新たな知的連携が創出され、人の交流が深化します。また、宮崎県の次世代の育成の充実のため、教員養成の高度化を県教育委員会と協力して推進します。

#### 7. 教職協働による経営基盤の強化

大学の実績と潜在能力を集約し、方向性を決めて価値に転換することこそが、学長の役

割です。私は学長として、民間企業の長所を大学経営に取り入れますが、教育と研究を担う大学は、「学問の府」として社会的に共有される資産であることが大前提です。

宮崎大学を熟知する教職員の皆さまと活発な意見交換を行い、課題と解決策を提案するボトムアップを大切にし、最終的に学長として責任をもって判断します。また、皆様が適切に役割を分担し、効率的に協働できる体制を構築します。そして、財務、産学連携、国際協力、外部資金獲得等の得意分野を活かせる人材育成を進めます。

地方国立大学の現実的な未来展望や課題を全ての教職員の皆様と共有し、知識集約型社会にふさわしい地方大学経営の規範となるべく、学長として全力を尽す所存です。

- (注) 1. 用紙は、日本産業規格A4縦型とする。
2. 所信欄に、宮崎大学の将来構想、教育・研究・社会貢献・国際貢献、大学運営に関し、2000字程度で作成してください。
3. この所信表明書は、選考過程において公表されます。